

PU

No.18

—岡山県立大学附属図書館—

2017年7月発行

- ◆ 選書ツアー 2017
 - * 本のリクエスト (学生希望図書)
- ◆ 新館長のご挨拶
- ◆ **特集** 別れと出会い
 - ~すべての学生に向けて~
- ◆ カーリルタッチ！
 - * 館内スタンプラリー開催中
- ◆ 学生アルバイト募集中



◇ 選書ツアー2017 ◇



5月27日(土) 紀伊國屋書店クレド岡山店様にご協力いただき選書ツアー2017を開催しました。

選書された本は今後図書館内に展示し貸出します。

選書ツアーとは：学生さんと図書館職員が直接書店に出向き、図書館において欲しい本を選び購入するという企画です。



『Airbnb Story』リー・ギャラガー著/日経BP社

おすすめの理由

ノンフィクションで実績があり表紙を見て面白そうと思ったから。

新館長のご挨拶



図書館長 渡辺富夫

図書館長の渡辺です。私は、本学開学の1993年に着任し、新しいキャンパスで学生さんの見事な成長ぶりと大学、図書館の進展とともに歩んで参りました。図書館は、この変化の激しい時代の中で生き活きと生きていく上での礎を築く重要な場です。図書館には無限の可能性がります。大いに図書館を活用下さい。

本のリクエスト (学生希望図書)



この選書ツアー以外でも、図書館に所蔵のない、おいて欲しい図書を一人年間10冊まで、いつでもリクエストすることができます。図書館カウンターか図書館HPにある「学生希望図書申込書」に記入して、リクエストください。



特集

別れと出会い

～すべての学生に向けて～

新しく就任された副館長より、すべての『学生』に向けて、人生のエールとなるような「メッセージ」と「おすすめの本」を紹介していただきました。



中村 光 教授 / 副館長・保健福祉学部保健福祉学科



しばしば今は「激動の時代」だといわれ、常に不安を煽り立てられているようにも感じます。しかし、書物を通じて先の大戦時とか幕末とか戦国時代とかについて知ると、これくらいで激動というのはおこがましいように思います。歴史の大部分の時間は、日々生きることが今よりはるかに困難だったということがわかります。そもそも若者の人生は、いつの時代も常に激動でしょう。Eriksonの発達理論では、発達段階が8期に区分されていますが、そのうち30歳代までに6期が充てられています。数年単位で人生の次過程に進みますので、常に大きく揺れ動きます。

Eriksonの区分ではすでに第7期の終盤に差し掛かっている私がつくづく思うのは、「難しいことを実現する」のは何歳でも出来るが、「不可能を可能にする」ことが出来るのは、唯一若者だけだということです。多くの人や、出来事や、そして古今東西の書物と出会う、「激動」の 때가きても乗り切って、1つだけの1回だけの自分の人生を大事に生きてもらえればと思います。

小野 英志 教授 / 副館長・デザイン学部デザイン工学科



ついぞ、そのような督励に際会した覚えの無い身には、「学生にエールを贈り、加えて、それにふさわしい本を薦めよ」というリクエストに応えることは、ほとんど不可能である。

リサーチすれば、学生に限らず「エールを贈ってもらった」と感謝される本はゴマンとリストアップされるであろうが、この私がここで推す本に対して、この文章を読んでもらえるあなたが「自分にエールを贈ってくれている」と感謝する可能性は限りなく小さい。人は、十人十色、百人百様、千差万別である。私の推薦書が誰かにエールを贈ることになると判断できるくらいならば、その予知・分析能力を別の方面で駆使した結果、私は今頃ここには居ない（はずである）。

本学図書館は、蔵書20万を数える。この中に先ほどのゴマンのうちの何冊かが含まれている可能性は、私の推薦書が有する可能性より、格段に高い。なに、年間ゴマン冊読めば、卒業までの4年で読み了る。学生諸君においては、図書館は読み倒されるのを待っているものと心得て、在学中に完膚無きまでに?!使い倒してもらいたい。そうすれば図書館の方から「学生にエールを贈ってもらった」と、あなたに謝意が示されるであろう。

おすすめの本

アーロン収容所

「別れと出会い」がテーマですので、私は「異文化との出会い」に関する2冊を紹介します。

1冊は「会田雄次著：アーロン収容所」です。第二次世界大戦に補充兵として従軍し、ビルマでイギリス軍の捕虜となった経験をもつ歴史学者の筆者が、収容所の極限状態の中で体感した西欧文化を率直に描いたものです。副題には「西欧ヒューマンイズムの限界」とあり、皮相な西欧文明



礼賛を戒める書で、大規模牧場を経営する歴史をもつイギリス人が家畜と同じように捕虜を管理する様にはゾッとします。しかし、自文化と異文化の単純な善悪二元論では決してありません。捕虜の日本人将校が「戦争をおこしたのは申し訳ないことであつた」と謝ると、あるイギリス人中尉は諭します。「われわれは祖国の行動を正しいと思って戦った。君たちもそうなのだろう。負けたらすぐ悪かったと思うほどその信念は頼りなかったのか。情けないことは言ってくれるな」と。日本人捕虜との約束を守るため、軍隊内での処罰をおそれず々と上官に立ち向かうイギリス人下士官も登場します。本当の誠実さとは何かを考えさせられる場面です。



『アーロン収容所』会田雄次著／中央公論新社 [資料ID 0003293801, 開架 916/AI]

深夜特急

もう1冊は「沢木耕太郎著：深夜特急」です。有吉弘行が猿岩石として出演したテレビ番組「進め!電波少年：ユーラシア大陸横断ヒッチハイクの旅」のモデルとなった旅行記です。26歳の「私」はアジアからヨーロッパまで、バック

クッカーとして乗り合いバスを乗り継ぎ横断する旅に出ます。結局、4カ月の予定の旅は1年以上になりました。香港・マカオの熱気と喧騒、インドの混沌と無常、中央アジアの雄大と奔放、そしてトルコ、南欧を経て終着地ロンドン中央郵便局まで、世界の各地で泣き笑いしながら生活する人々と、その中で自分の生を見つめる「私」が、本当に生き生きと描かれています。ワクワクしながら読み終えたあと、生きるとは何か、人生の喜びとは何かを考えてしまいます。

大学は学生も職員も比較的均質ですが、社会に出ると今まで接したこともないような人に、上司や部下として、仕事仲間として、また顧客や患者として出会うこととなります。自分自身を変えたり成長させてくれるような異文化との出会いを、まずは書物で経験するのはいかがでしょうか。



『深夜特急 第1便』沢木耕太郎著／新潮社 [資料ID 0003240604, 開架 915.6/SA]

おすすめの本

図書館のすゝめ

福沢諭吉は『学問のすゝめ』で、「信の世界に偽詐（ぎさ）多く、疑いの世界に真理多し」として、ガリレオなどの挑戦的な業績を高く評価し、続けて「人事において男子は外を務め婦人は内を治むるとその関係ほとんど天然なるがごとくなれども、

スチュアルト・ミルは『婦人論』を著わして、万古一定動かすべからざるのこの習慣を破らんことを試みたり」とも述べている（十五編）。さて私は、地球温暖化説と寒冷化説のどちらか一方を「正しい」と判定できないでいる。決着はついていない、微視的には温暖化であっても巨視的には寒冷化と見るのが妥当、と考えている。が、今は温暖化説が「信の世界」になろうとしていること、したがって「寒冷化を否定することはできない」などと言うと、よほど居心地が悪くなることも、よく分る。



本学図書館の蔵書を「地球温暖化」で検索すると、116件ヒットする（「地球温暖化」論に騙されるな!」なども混じるが、ほとんどは温暖化説に立脚）。「地球寒冷化」で検索した結果は、「一致する資料は見つかりませんでした」。「地球 寒冷」では、雑誌記事1件である。（4月24日現在）

「万古一定動かすべからざるを破らんこと」、「事物を疑いて取捨を断ずること」は、間違いなくメンドクサイことである。それを承知で、私は、皆さんが「動かすべからざる」事柄、さらには、あらゆる「あたりまえ」に対して、再検討の目を向けることを願うものである。そしてその時、図書館が皆さんの視野の拡大・転換の一助たることを、切に願うものである。

『福沢諭吉選集 第3巻』福沢諭吉著／岩波書店 [資料ID 0002669981, 開架 081.6/FU/3]

19歳からでも遅くない

学生にエールを贈りつつ図書のおすすめを、という原稿依頼に応えるべく、あれこれ考えましたが、北朝鮮情勢が緊迫し、明日にも核実験なり、ミサイル発射が懸念されるなか、小川和久さん（軍事アナリストで静岡県立大学特任教授）の『14歳からのリアル防衛論』も紹介することにしました。（「14歳から」とは、わが国出版界における常套語法で、おそらくは故池田田子さんの『14歳からの哲学』（2003）以来、中高生ないしは初学者対象の入門書のタイトルに冠せられるようになった惹句です。）

ここに紹介する『リアル防衛論』も、中高生に対する口調で防衛を説くものですが、本書に掲げられた用語・発想に通じている日本人は、成人でもごく少ないのではないかと想像します。

東日本大震災による福島第一原発事故の際、アナウンサーの脇に原発の専門家や科学分野担当の解説委員と称する人がサポートする形で、ニュース報道がなされていました。正確・緻密を期すれば期するほど、専門知識の解説が即時性・速報性を阻害する、なんとでも奇立たしいものでした。

ミサイルが飛んできた時、多くの日本人が軍事用語を回避したような報道で、事態を正確に理解・判断できるのでしょうか？ 本気で世界のリアリティに正対する姿勢が、個々人に厳しく問われています。



『14歳からのリアル防衛論』小川和久著／PHP研究所 [資料ID 0003292653, 開架 329.1/OG]

カーリル™ タッチ!

カーリルタッチ!とは

スマートフォンやタブレットでタッチするだけで、キャンパスライフに役立つ情報や図書館の資料、調べ案内などにダイレクトにアクセスできるサービスです。



端末のNFC機能の設定を「ON」
※iPhoneなどNFC非対応端末の場合はQRコードで読み取ってください。



青い部分に
タッチ!



▲タッチタグの一例

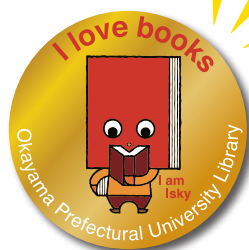
所蔵資料や
調べ案内へ▶



館内スタンプラリー開催中

対象のタグにタッチして、缶バッジをゲットしよう!

館内にある対象の5つのカーリルタッチ!タグを全部タッチするとスタンプが集まり、特別な画面が表示されます。カウンターで見せると、イスキー君缶バッジがもれなく貰えます。ぜひ集めて貰ってくださいね。



◆「ビブリオバトル」が開催されました◆



エントランスホールで、Okayama Bookworms主催のビブリオバトルが開催されました。

※ビブリオバトルとは「本を5分で紹介しあい、読みたくなった本を投票で決定する書評ゲーム」です。

—— 学生アルバイト募集中 ——

次年度採用の学生アルバイトを募集しています。

賃金	時給765円
人数	6~7名
勤務開始日	平成30年4月~
勤務時間	週1回程度 平日 16:45~21:45までの5時間 土曜日 8:40~17:30までの8時間(お昼休憩50分)
受付期間	平成29年11月末まで
面接日	平成29年12月中(後日連絡)

